

# 鳥取縣公報

告示

第三百四十三號  
昭和七年八月九日

火曜日

◇鳥取縣告示第三百十號

土木工事仕様書左ノ通定ム

昭和七年八月九日

鳥取縣知事 館 哲 二

土木工事仕様書

第一節 總 則

第一條 工事ハ監督員ノ指示ニ從ヒ附屬圖面及本仕様ニ準據シ施行スベシ

但設計書ニ記載スル寸法ハ總テ仕上ノモノトス

第二條 工事施行ノ順序方法及請負人ノ設計（箱枠、締切、コンクリート型枠、拱架、支保工、其

00960

ノ他假設工事等)ハ豫メ監督員ノ承認ヲ受クベシ  
 第三條 工事施行ニ必要ナル監督員詰所、測量、遣形、足場、假道、假水路、照明、試験杭打、其ノ他ノ設備並ニ各種ノ検査及工事中ニ於ケル寫眞撮影ニ要スル費用ハ請負人ノ負擔トス  
 第四條 工事施行中ハ交通、水利其他公衆ニ迷惑ヲ及ボサザル様夫々手配ヲナシ必要ニ應ジ相當ノ設備ヲ爲スベシ  
 第五條 工事施工中ハ地上及地下ノ既設建造物ニ支障ヲ及ボサザル様相當ノ防護工ヲ施スベシ若シ既設建造物ニ損傷ヲ及ボシ又ハ便宜上取毀ヲ爲シタルトキハ指定ノ期間内ニ請負人ノ復舊スベシ  
 第六條 仕様及圖面ニ明記ナキモノハ必ず監督員ノ指示ヲ待ツテ施行スベシ  
 第七條 工事材料ハ日本標準規格ニ合格セルモノニシテ使用ニ先立テ監督員ノ検査ヲ受クベシ  
 不合格品ハ直ニ現場ヨリ撤去スベシ  
 第八條 設計圖面若ハ仕様書ニ指定セル材料ニ對シ之ト同等又ハ同等以上ノ品質形狀ヲ有スルモノハ代用ヲ許スコトアルベシ  
 第九條 支給品ノ梱包材料並ニ現場發生ノ處分ニ就テハ監督員ノ指揮ヲ受クベシ

00961

第二節 材料

第十條 土管

一 土管ハ素質堅緻ニシテ火度充分ニ行キ渡リ圓度正シク且無瑕ノモノタルベク其ノ寸法及重量ハ左記標準ニ依ルモノトス

稱	呼内	徑(糎)	有效長(糎)	重	量(疋)
十糎管		一〇	五〇		三四八一
十五糎管		一五	六六		一二二八五
十八糎管		一八	同		一五一五〇
二十三糎管		二三	同		二〇四七五
三十糎管		三〇	同		三四八〇八
三十八糎管		三八	同		四九二二五
四十五糎管		四五	同		七二六六二
六十糎管		六〇	同		一〇八五一七

第十一條 石 材

一 石材ノ產地、強度、色彩、吸水其ノ他ノ品質ニ就テハ監督員ノ指揮ヲ受クベシ

第十二條 石積一平方米ニ要スル築石ハ特ニ設計書ニ記載スルモノノ外左ノ箇數ヲ標準トス

控	長	間	知	石	割	石	又	ハ	粗	石	野	面	石
二十	糧		箇	以					箇	以			箇
二十五	糧								三	六			三
三十	糧								二	五			三
四十	糧								一	二			二
五十	糧								一	〇			一
六十	糧								八				八

二 粟石ハ玉石若ハ碎石ニシテ徑九糧以上ノモノタルベシ

第十三條 砂、砂利及碎石

一 モルタル及コンクリート用ノ砂、砂利又ハ碎石ハ其ノ質堅硬ニシテ細粗適度ニ混合シ、泥

土塵埃等ヲ含マザルモノタルベシ

二 混凝土用砂利又ハ碎石ノ寸法ニシテ設計書ニ明記ナキモノハ左ノ標準ニ依ル

種	類	寸	法	用	途
第一	種	六 五 四	六 五 四	以上 以下	普通 玉石 コンクリート
第二	種	六 三 〇	六 三 〇	以上 以下	壁厚 薄キ 普通 コンクリート
第三	種	六 二 〇	六 二 〇	以上 以下	壁厚 薄キ 鐵筋 コンクリート

三 目潰砂利ノ類ハ用途ニ相應スル品質ノモノニシテ粒ハ大小適當ニ混合セルモノタルベシ

第十四條 鐵 材

一 建築用材ハ日本標準規格ニ依ル

二 鐵筋混凝土用鐵材ハ特ニ明示スルモノノ外ハ良質軟鋼ナルベク耐伸強度一平方糧ニ付三、九〇〇軒以上四、九〇〇軒以下延伸百分ノ二十以上斷面積ノ公差ハ百分ノ二十五以下ニシテ

瑕疵ナキモノタルベシ

三 ボールト用鐵材ノ品質ハ鐵筋コンクリート用鐵材ニ準ジナツトハ機械製ノモノタルベシ

四 鑄鐵品及鑄鋼品ハ其ノ質均一堅緻ニシテ裂罅、空窩等ナク隅角縁邊共ニ充實セルモノタル

ベシ

鑄鋼品ハ特ニ指定スルモノノ外ハ平爐又ハ電氣爐ニ依リ製造シタル中鑄鋼トシ完全ニ燒戻シタルモノタルベシ

## 第十五條 木 材

- 一 木材ハ成ルベク乾燥シタルモノニシテ死節、生節ノ大ニシテ使用ノ妨ケトナルモノ又ハ立枯レ水腐リ捻レ歪ミ等保存耐久力上ニ缺点アルモノハ使用スベカラズ  
但シ高欄ノ木材ハ齋疵ハ勿論生節タリトモ成ルベク少キモノヲ使用スベシ
- 二 押角材ハ各角ニ於テ各邊ノ長サノ二割以上ノ丸形ヲ帶ビタルモノハ使用ヲ禁ズ
- 三 丸太材ハ彎曲ナキヲ要ス其ノ曲リハ心墨ヲ外ズシテ施行上支障ナシト認メタルモノハ使用ヲ許スコトアルベシ
- 四 丸太材ハ基礎材及棚杭、力杭、連杭等ヲ除キ成ルベク乾燥シ渾テ外皮ヲ剝ギタルモノトス又末口ノ寸法ハ何レモ外皮ヲ除キ長ニ直角ナル平面ニ於テ計ルベキモノトス  
但シ斷面橢圓形ナルモノハ長短ノ徑ヲ平均シタル寸法ヲ以テ測定ス但シ短徑ハ長徑ノ八割ヲ下ラザルヲ要ス

- 五 橋梁用木材ハ眞直ノモノニシテ死節、大節、裂目及ビ腐蝕等ノ損傷アルベカラズ
- 六 粗朶ハ檜、エゴ其ノ他雜木(針葉樹及髓アルモノヲ除ク)細枝多クシテ長三米以上元口徑三十耗以下ノモノ六割長二米以上ノ繼粗朶四割ニシテ元口ヨリ五十耗上リタル所七十耗廻リ二米上リタル所五十耗廻リニ藤蔓又ハ二子繩ニテ堅ク結ビ一束トスベシ
- 七 帶梢ハ木質粗朶ニ同ジク小枝ナキモノトシ長三米半以上元口徑二十耗乃至二十五耗二十五本ヲ以テ一束トスベシ

- 八 雜粗朶ハ一米二十耗打達ヒ一米五十耗繩メヲ以テ一束トスベシ
- 九 三子繩ハ良質ノ藁ヲ良ク叩キ三子ニ合セタル藁繩ニシテ一條ノ長サノ一端ニハ三子ニ合セタル蛇口形ノ輪ヲ作り繩ノ太サハ輪ノ下ニテ徑二十五耗以上トシ長三米ノ處ニテ徑十八耗以上トシ捻力硬固ナルモノトス

- 一〇 二子繩ハ良質ノ藁ヲ良ク叩キ二子ニ合セタル繩ニシテ徑十二耗以上長三十米ヲ以テ一房トス

## 第十六條 塗 料

- 一 ベイントハ日本ベイント株式會社製又ハ之ト同等以上ノモノニシテ其ノ調合割合ハ次ノ如

一平方米ニ對スル塗料調合割合

材	第 一 種			第 二 種		
	一回	二回	三回	一回	二回	三回
鉛	〇、一九二	〇、一九二		〇、九二〇		
アマニ油	〇、〇六〇	〇、〇六〇	〇、〇四六	〇、〇六〇	〇、〇四六	〇、〇四六
色ヘイソント			〇、一一〇		〇、一一〇	〇、一一〇
パド テナ イヤ ス糊	〇、〇〇三	〇、〇〇三	〇、〇〇三	〇、〇〇三	〇、〇〇二	〇、〇〇二

- 二 塗料ニ用フル油類ハ品質良好ナルモノタルベシ
- 三 其ノ他ノ塗料ノ種類ニ就テハ監督員ノ指示ヲ受クベシ

第三節 工 事

第十七條 土 工

- 一 盛土ヲ施スベキ地盤ニ存在スル有害ナル雜物ハ施工ニ先立チ之ヲ取除クベシ
- 二 塵埃其ノ他有害ナル物ハ盛土ニ使用スベカラズ
- 三 在來路面又ハ固結セル地盤上ニ盛土ヲ施サントスル場合ニハ豫メ其ノ表面ヲ相當ノ深サ迄

掻キ荒スベシ

四 傾斜セル地盤ニ盛土ヲ施サントスル場合ニハ必要ニ應ジ相當ノ階段ヲ刻マシムルコトアルベシ

五 盛土又ハ埋戻ハ其ノ土質並ニ高サニ應ジ相當ノ厚サ毎ニ充分搗固ムベシ

六 盛土ニハ必要ニ應ジ大体次ノ標準ニ依リ餘盛ヲ加ヘ築造セシムルコトアルベシ尙堤防ノ馬踏ハ二十分ノ一ノ弧形ニ仕立ツベシ

盛土ノ高サ 餘盛ノ高サ

一米五十糎未滿 十五糎

一米五十糎以上四米五十糎未滿 高サノ一割

四米五十糎以上九米未滿 高サノ八分

七 地盤若ハ法面ヨリ湧水スル箇所ニハ必要ニ應ジ相當ノ排水工ヲ施サシムルコトアルベシ

八 鋼土ハ厚(三十糎)毎ニ千本搗キヲ爲シテ充分搗固ムルモノトス

九 盛土法面ハ蝟木及土羽板ニテ充分締固メタル上芝付ヲ爲スベシ

一〇 張芝及筋芝ハ長三十糎幅十五糎厚六糎ノモノトシ張芝ハ一枚ニ付一本ノ割合ヲ以テ長十

00968

第十八條 根 堀

八糶以上ノ目串留ヲナシ筋芝ハ法高三十糶毎ニ植付クベシ

- 一 根堀ハ必要ニ應ジ相當ノ土留工又ハ締切工ヲ施シ築造物ノ底面形狀ニ從ヒ所定ノ深サニ堀下ゲ底面ハ不陸ナキ様切均シ監督員ノ検査ヲ受クベシ
- 二 築造物ノ築造ヲ終リタル後根堀ヲ土留工、締切工、箱枠等ハ必要ニ應ジ取除キ所定ノ高サ迄充分搗固メツツ埋ヲ爲スベシ

第十九條 殘土處分

- 一 殘土ノ處分ハ監督員ノ指揮ニ依リ無碍地へ取捨ツベシ

第二十條 基礎工

- 一 天然地盤又ハ根堀底面ヲ其ノ儘基礎ニ用フル場合ニハ必要ニ應ジ栗石又ハ砂利ヲ填充シ搗固ムベシ
- 二 栗石工ハ根堀ヲ終リタル後指定ノ厚サニ栗石ヲ敷並ベ目潰砂利ヲ填充シ充分搗固ムベシ
- 三 末口十二糶未滿ノ杭木ハ相當重量アル蝸木其ノ他適當ナル杭打器械ヲ使用シテ打込ミヲナシ末口十二糶以上ノ杭木ハ渾テ指定ノ重量ヲ有スル器械(但シ末口二十五糶未滿ハ重量百五

00969

十軒、同二十五糶以上三十糶未滿ハ重量二百二十五疋、三十糶以上ハ重量三百軒以下ノモノハ使用ヲ許サズ)ヲ使用シテ打込ミ杭打ヲ終リタルトキハ杭頭ヲ所定ノ高サニ切揃フベシ杭木尖ノ長ハ末口徑ノ一倍半ヲ以テ標準トス

鐵筋コンクリート杭ニアリテハ杭頭コンクリートヲ適當ノ長サニ取毀テ鐵筋ハ之ヲ屈折シテ基礎コンクリート中ニ挿入スベシ

鐵筋コンクリート杭ハ製作後四十日以上經過シタルモノヲ使用スベシ  
杭打工ハ必要ニ應ジ杭頭ニ鐵輪又ハ適當ナル杭帽ヲ裝置スベシ  
杭ハ地質ニ應ジ所定ノ寸法ヲ變更スルコトアルベキヲ以テ試驗杭打工又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ寸法ヲ確定スルモノトス

- 四 胴木工ハ第一項ニ準ジ施工セル地盤上ニ胴木ヲ据付ケ胴木上面迄間隙ナク栗石及目潰砂利ヲ持込ムベシ

- 五 杭打胴木工ハ抗頭ヲ所定ノ高サニ切揃ヘ柄ヲ附シ棧木及胴木ヲ組合セタル後胴木上面迄間隙ナク栗石及目潰砂利ヲ填充シ充分搗固ムベシ

- 六 基礎工事中湧水アル場合ニハ根堀内ノ水ヲ排除シ基礎工ノ施工ニ便スベシ

但シ湧水多量ニシテ排水困難ナル場合ニハ監督ノ指揮ヲ受ケ湛水ノ儘適當ナル工法ニ依ルコトヲ得

第二十一條 モルタル及コンクリート工

一 モルタル及コンクリートノ調査ハ其ノ都度監督員ニ於テ指示スベシト雖モ特ニ指定スルモノノ外左ノ標準ニ依ルベシ

(一) モルタル

セメント 砂

用

途

一、 一、

コンクリートノ新舊繼目

一、 二、

床石及笠石類ノ据付、疊築工及石垣ノ目筋塗、拱及工事中湧水多キ部

分ノ疊築工

一、 三、

普通疊築工、煉瓦石積ノ合端、土管繼目

(二) コンクリート

セメント 砂

砂利若ハ碎石

用

途

一、 二、

水中コンクリート、鐵筋コンクリート

一、 二、五

五、

鐵筋コンクリート橋臺及橋脚

一、 三、

六、

普通コンクリート、玉石コンクリート

一、 四、

八、

裏詰、中詰、目潰、簡易ナル基礎

調査ハ總テ容積ノ割合トシ、セメントノ容積ハ一、五五〇軒ヲ以テ一立方米即チ一樽ヲ〇、一

一立方米トシテ計算スルモノトス

混合用水量ハ大略左ノ標準ニ依ルモノトス

施工方法 砂容積ニ對スル水ノ百分率

固メノ時 三五乃至四〇

備 考 砂ハ乾燥シタルモノヲ用ヒ、砂利ハ濕リタルモノヲ用フル場合ノ割合トス

流込ノ時 四一、乃至四六

二 玉石コンクリートノ混入石材ハ土砂等ノ附着セザル堅硬ナル野面石若ハ割石トシ施工方法

ハコンクリートヲ打込ミ之ニ濕シタル石材ヲ適當ニ混入シ、其ノ周圍ニ空隙ナキ様コンクリ

ートヲ入念ニ填充スベシ

三 モルタル及コンクリートノ練合セハ監督員ノ許可ヲ得タル混合機ヲ使用スベシ

但シ止ムヲ得ザル場合ニ限り手練ヲ許スコトアルベシ

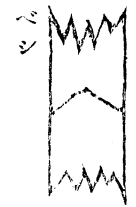
モルタルヲ手練ニテ練合スル場合ニハ漏水セザル練臺上ニ置キ之ニセメントヲ加へ一様ノ色合トナル迄ヨク空練シタル後清水ヲ加へ更ニ三回以上練合スベシ

コンクリート手練ノ場合ハ前記ノ方法ニテモルタルヲ作りタル後之ヲ敷擴ゲ濕シタル砂利又ハ碎石ヲ加へ三回以上練合スベシ

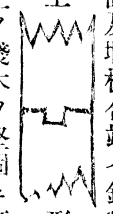
四 モルタル及コンクリートハ必要ニ應ジ其ノ都度練リ合セ速ニ使用スベシ  
練合後一時間以上經過セルモノハ使用スベカラズ

五 湧水アル個所ニコンクリート工ヲ施ストキハモルタルノ洗ヒ流サレザル様相當ノ防備ヲナスベシ

六 型枠及拱架ノ組立、据付等ハ正確堅固ヲ期シ又型枠内面、拱架表面及嵌板合端ハ鉋削リトシ不陸ヲ去リ漏水セザル様施行スベシ、型枠ノ繼合方法ハ深六耗以上



形ノ嵌込繼トナシ四十種以内ノ間隔ニ四十五耗角以上ノ棧木ヲ堅固ニ打付クベシ



形又ハ

七 混凝土ノ型枠ノ隅及接合部ニハ完全ナル閉止工ヲ施シ尙ホ必要部分ニハ凡テ隅面三角材ヲ取付クベシ

八 型枠内面ニハ必要ニ應ジ型枠撤去ヲ容易ナラシムル爲油脂ノ類ヲ塗布セシムルコトアルベシ

九 コンクリート型枠及拱架ノ存置日數ハ其ノ都度監督員ニ於テ指示スベシト雖モコンクリート打込後左ノ標準日數ヲ經過シタルニ非ザレバ撤去スベカラズ

側面ノ型枠	柱類ノ型枠	床版ノ底面型枠	支拱ノ間及桁樑六米未満ノ桁床版	支間六米以上ノ桁及拱ノ型枠
四日乃至七日	六日乃至十日	十二日乃至十八日	十六日乃至二十四日	二十一日乃至二十八日

一〇 コンクリート工ニ伸縮目筋ヲ設クルニハ監督員ノ指示ニヨリアスファルトフェルト其ノ他適當ナル材料ヲ挿入シ繼目面ハ平滑ニ仕上クベシ

一一 コンクリート工ハ區劃内ハ成ルベク引續キ施行スベシ  
止ムヲ得ズシテ一時工事中絶スル場合ハコンクリートノ凝結セザル内豫メ其ノ表面ニ凹凸ヲ作り置キ、次回始業前鐵アラシノ類ヲ以テ搔キ荒シツツ充分洗滌シテ粗面トナシモルタルヲ敷キ均シタル後コンクリートヲ加へ繼目ニ於テ強度ノ減セザル様注意施行スベシ

一二 コンクリート又ハ練積農築工ノ壁体ニハ適當ニ排水孔ヲ設ケ孔ノ背面附近ニハ栗石及目



潰砂利ヲ填充スベシ

一三 水中コンクリート工又ハ施工後直ニ水中ニ没スルコンクリート工ハ澆水ヲ靜止セシメ置キ五晝夜以上經過シタル後ニ非レバ水替ニ着手スベカラズ

一四 コンクリート工及練積疊築工ハ施行中雨雪ニ直接暴露セザル様防護シ尙寒中ハ其ノ凍結ヲ防ク爲相當ノ設備ヲナスベシ

又施工ヲ了ヘタル部分ハ直ニ莖類ニテ蔽ヒモルタルノ硬化スル迄之ニ撒水シ常ニ濕潤ニ保タシムベシ

一五 鐵筋コンクリート工ハ鐵筋ノ配置繼手及交叉部分等ヲ正確ニ齊整シタル後是等ニ狂ヒヲ生ゼザル様コンクリートヲ徐々ニ填充シ鐵筋ノ周圍及型枠ニ接近スル部分ハ特ニ注意シテコンクリートノ普及スル様施行スベシ

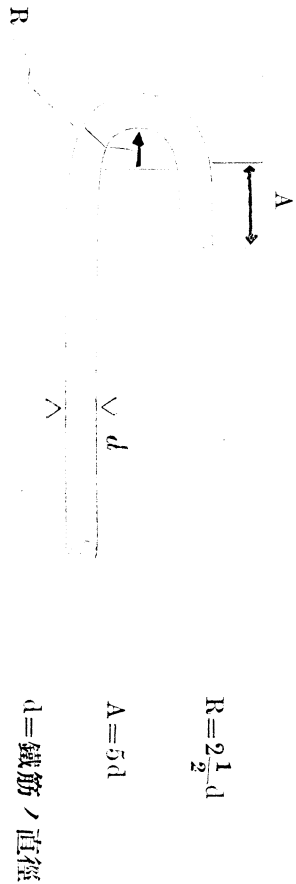
鐵筋ニ附着セル浮錆、油脂、塗料及塵芥等鐵筋トコンクリートトノ間ノ附着力ヲ減殺スベキ處アルモノハ總テ之ヲ除去スベシ

一六 鐵筋ヲ曲グルニハ加熱スベカラズ

一七 鐵筋ノ繼手ハ特ニ指定スルモノノ外其ノ直徑ノ約四十倍以上ノ長サダケ重子合セ二十番

鐵線ニテ緊結スベシ

一八 鐵筋端末ノ屈曲ハ特ニ指定スルモノノ外其ノ兩端ヲ鈎形トナスベシ



第二十二條 疊築工

一 石材コンクリート塊其ノ他人造石ハ使用ニ先立チ洗滌シ水ニテ充分濕スベシ其ノ目筋幅ハ十二糎ヲ標準トス

二 粗石積ノ合端ハ玄翁仕上ゲ、目筋幅ハ十二糎ヲ標準トシ内部ノ間隙ハ四十五糎以下トス尙堅目筋ハ半繼ヲ避ケ喰ヒ違ヒ九十糎以上トシ厚サヨリ幅ノ狭キ石材ハ成ルベク使用セザル様施行スベシ

三 切石ノ合端ハ縁リ廻リ直角ニ小叩仕上トシ其ノ積立ニハモルタルヲ敷キ洗滌シタル石材ヲ据付クベシ

目筋幅ハ監督員ノ指揮ニ從フベシ

四 間知石積ハ谷積トシ、空積ノ場合合端ハ二十耗以上摺合セ栗石ヲ以テ胴飼、友飼及裏込等入念ニ施シ其ノ間隙ニハ目潰砂利ヲ填充シ又練積ノ場合ハ合端ニモルタルヲ用ヒ合端末ヨリ控末迄コンクリートヲ以テ間隙ヲ填充スベシ

五 割石及野面石ハ小口積トシ、合端ハ玄翁ヲ以テ相當ノ胴付ヲ爲シ如何ナル場合ト難モ平造ヒ横石遣八ツ卷、四ツ卷、四ツ目、浮石、拜ミ石、逆石、重子石、半繼等及四箇以上ノ通目ヲ生ゼシメザルヲ要ス

六 張石ハ必要ニ應ジ根堀ヲナシ相當ノ厚サニ砂利又ハ栗石ヲ敷均シ搗固メタル後張石ヲ合端玄翁ニテ表面甚ダシキ間凸ナキ様張詰メ、合端末ヨリ控末迄充分ニ栗石及砂利ヲ填充スベシ

七 張石煉積ハ間知石練積ノ仕様ニ準ジ施行スベシ

### 第二十三條 木床及枳類籠類等

一 木床及枳類ノ葺石ハ周圍ヨリ始メ中央ニテ留メ中詰栗石ハ成木ヨリ脱出セザル様周圍ニ大玉石ヲ配置スベシ蛇籠フトン籠タルマ籠等ノ詰石亦同ジ

二 枳類及橋梁材締付用ポールトハ其ノ女捻ノ容易ニ脱離セザル様捻頭ヲツブシ置クベシ

三 手編鐵線蛇籠及フトン籠ノ目ハ正六角三ツ燃トシタルマ籠ハ堅線ヲ ○ ○ 形ニ曲ゲ之レニ横線ヲ挿入シテ矩形トナスベシ

四 柳蛇籠ハ柳枝伐採後直ニ製作ノ上伏込ムベシ

五 杭柵搔キ初メハ帶梢ヲ杭木ニ卷キ込ミ搔留モ同様ニシ漸次踏ミ締仕上高ニ至リテ二本ノ捻リ搔キトスベシ

六 根固捨石ハ必ズ床拵ヲナシ据リヨク並列スベシ

七 沈床ニ用フル粗朶ハ連柴用六束打粗朶用十五束ヲ標準トシテ使用スベシ

八 連石床ハ所定ノ大サ及重量ヲ有スル球形ノモノヲ撰ビ豫メ検査ヲ受ケタル後穴彫リヲ爲シ串釘ヲ以テ連石ヲ貫通シ結合釘ヲ以テ之ヲ連結シ据付個所ハ必ズ床拵ヲ爲シ馴染能ク据ヘ付ケ其ノ間隙ハ大栗石ヲ以テ十分目潰ヲ施スベシ

### 第二十四條 ベイント塗工

- 一 木部塗面ハ汚ヲ去リ節止及ハテ飼ヲ爲シ鐵部塗面ハ錆其ノ他ノ附着物ヲ除去シタル後下塗ヲ施スベシ
- 二 鐵部ノ下塗ニハ光明丹ヲ用フベシ 但シ亞鉛鍍鐵板ノ塗面ニハ鹽化銅、硝酸銀、碓砂、鹽酸ノ溶液ヲ塗布シタル後清水ニテ洗滌シ之ガ乾燥ヲ待テ下塗ヲ施スベシ
- 三 鐵部ノ組立後塗布シ難キ部分ニハ組立前光明丹ヲ施スベシ
- 四 鐵桁ハ下塗一回中塗及上塗ニハ鶯色各一回トシ凡テ塗料ハ適當ノ煮亞麻仁油ニ溶解セシメ班ナキ様町嚙ニ塗上グベシ
- 新規鐵桁ノペイント塗ハ豫メ工場塗ヲ施シアルヲ以テ之ヲ剝落シ油拭ヲ施シ光明丹ヲ以テ錆止一回施シタル後前記ニ準シ施行スベシ
- 五 ペイント塗替ハ在來ノ塗料並ニ附着物ヲ剝落シ木部ハ先滌シハテ飼ヲ爲シ鐵部ハ油拭ヲ爲シタル後前記ニ準シ施行スベシ
- 六 ペイント塗替ハ相當足代ヲ取設ケスケレバー、ワイヤーブラツシ等ヲ用ヒテ錆又ハ塗料ヲ地金ノ現出スル迄削リ落シ検査ヲ經タル後ホイルドリンシードオイルヲ濕シタル布片ヲ以テ能ク面部ヲ拭ヒ地金腐蝕ノ爲メ凹凸甚ダシキモノハ第一法ヲ他ハ第二法ノ塗裝法ニ依リ熟

レモ斑ナキ様平等塗布スベシ

但鐵桁構造細密ナル部分ハ特ニ注意シ町嚙ニ塗上グベシ

七 「ペイント」塗施行後鐵桁ニ白ペイントヲ以テ年月日其ノ他ヲ指示ニ從ヒ記入スベシ

附 則

第二十五條 本仕様書ノ外必要ノ事項ハ別ニ之ヲ定メ一位代價表又ハ設計書ニ記入スルモノトス

第二十六條 特種工事ニシテ特別ノ仕様工法ヲ要スルモノハ更ニ仕様スルモノトス

◆鳥取縣告示第三百十一號

家畜傳染病豫防法第七條ニ依リ左ノ區域内ニ於テ飼養スル生後一ヶ月以上ノ畜牛ニ對シ氣腫痘豫防液ノ注射ヲ施行ス

依テ右所有者又ハ管理者ハ指定ノ日時及場所ニ其ノ畜牛ヲ牽付ケ注射ヲ受クベシ

昭和七年八月九日

鳥取縣知事

館

哲

二

00978

注射月日	注射場所	出場區域	牽付時
八月九日	西伯郡逢坂村大字高橋	西伯郡逢坂村大字高橋	
八月十日	東伯郡成美村大字勝田	東伯郡成美村一圓	當日午前八時
八月十一日	同郡同村大字中		
八月十二日	同郡赤碕町大字別所	同郡赤碕町一圓	
八月十三日	同郡同村大字赤碕		

◆鳥取縣告示第三百十二號

縣下東伯郡赤碕町ニ於テ左記ノ通家畜傳染病發生セリ

昭和七年八月九日

鳥取縣知事 館 哲 二

病名	畜類	性別	年	齡	發病年月日	轉歸年月日
氣腫	牛	牝	二	歲	昭和七年七月十九日	昭和七年七月十九日斃死
同	同	牝	二	歲	同	昭和七年七月二十一日斃死

00979

◆鳥取縣告示第三百十三號

當管内ニ於ケル健康保險齒科醫トシテ左記ノ通指定ス

昭和七年八月九日

鳥取縣知事 館 哲 二

診療所所在地	氏名	指定年月日
日野郡 黒坂村大字黒坂一四五〇	矢田具清治	昭和七年八月三日

# 彙報

傳染病患者表 昭和七年七月十六日

種別	赤痢	疫痢	赤痢疑似症	腸チフス	一巴拉チフス	猩紅熱	デフテリア	計
鳥取	患全死現	患全死現	患全死現	患全死現	患全死現	患全死現	患全死現	
者治	亡在	亡在	亡在	亡在	亡在	亡在	亡在	
鳥取	二	二	二	二	二	二	二	
計	二	二	二	二	二	二	二	二〇七

岩井署	河原署	寶木署	倉吉署一	八橋署	米子署	境署七三	黒坂署	溝口署	合計九四
			一			四		一	五
						一		一	二
					一			一	一
					一				一
			三一	三五三三四	四三一	三四			七五
		五五	二		一	八一	一一		八二
					一	一一			三二
					一				三三
			五二		四三	一		一	五五
			二		一	一		一	九
					二〇	二二	一	二	二八
		五	九	三五二八	六	八	一		七三
		五	四	三	三	二			三二
			二		一	二			〇二
			三			二			二五

昭和七年八月九日印刷  
昭和七年八月九日發行

發行所 鳥取縣鳥取市東町 縣  
印刷所 鳥取縣氣高郡大正村大字古海 鳥取刑務支所